

グローバル時代に求められる国際人材シンポジウム

【テーマ】 国際競争を勝ち抜くための企業経営と人材の確保

受付開始 14:30～

【シンポジウム】 15:00～17:20

・開会の挨拶 山形大学工学部副学部長、ものづくり技術経営学専攻長
見玉直樹氏

フジクラ電装株式会社・取締役社長
もっとみらいコンソーシアム会長 長谷川 健氏

・「とうほくMITRAIコースの特徴と留学生教育」
山形大学大学院理工学研究科・准教授 野田 博行氏

・「日本人学生のグローバル化対応と地域に貢献する留学生の教育」
山形大学大学院理工学研究科・准教授 仁科 浩美氏

・「グローバル化の時代に求められる会社経営と国際人材の活用」
株式会社ウエノ・代表取締役社長 上野 隆一氏

・「とうほくMITRAIコース在校生による発表」
とうほくMITRAIコース在校生

・閉会挨拶 山形大学大学院理工学研究科 教授
とうほくMITRAIコース長 高橋 幸司氏

【懇親会】 17:30～19:30

エネルギー価格の上昇、東日本大震災の影響、国際競争の激化などが、いま山形県内の企業に深刻な影響を与えています。一方、国際社会ではグローバル化とボーダレス化が目まぐるしい勢いで進んでいます。

日本国内では、少子高齢化による市場縮小と団塊世代・熟練工の大量退職、恒常的な財政赤字、若者の内向志向などによって国際競争力の相対的な低下が課題となっています。このようななかで日本企業の事業展開や生き残りのためにカギとなるのが、世界を舞台に活躍できる人材の採用と先見的視点を有した国際経営です。

シンポジウムでは、上記のような観点からこれからの時代を切り拓くための「国際人材の育成・採用」「グローバル経営」に焦点をあてて議論を深め、山形県内企業の国際展開力強化の在り方を検討します。



山形大学大学院理工学研究科 ものづくり技術経営学(MOT)専攻
とうほくものづくり国際人材育成プログラム
【アジア人財資金構想 経済産業省・文部科学省連携事業】

とうほくMITRAIとは・・・Management of Technology, Monozukuri Industry Talents Relating to Asian Innovationの頭文字をとった略です。

山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学(MOT)専攻は、平成20年度から平成23年度まで、経済産業省・文部科学省の支援を受けて留学生教育を進めてきました。このプログラムは、世界各国から優秀な留学生をリクルートし、山形大学において高度な専門教育と技術経営学にかかわる特殊教育を実施するとともに、日本に関連する教育(日本語、日本ビジネス、日本事情、日本文化などの日本教育)を行うものです。これまでに大学院を修了した留学生の多くは、山形県内企業に就職し、海外市場の新規開拓、技術移転、事業拡大、マネジメントなどの局面において活躍をしています。山形大学では引き続き、優秀な留学生を世界各国から受け入れ、山形県や東北地域の企業への就職を通じて、グローバル展開を推進する企業を支援していきます。

【日 時】 平成26年5月14日(水) 15:00～17:20

主催:「もっとみらい」コンソーシアム／共催:山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻



会 場:山形大学工学部「100周年記念館」(セミナーホール)
〒992-0038 米沢市城南4-3-16

米坂線「米沢駅」よりバスで10分「山大正門前」下車

参加費:シンポジウム:無料(懇親会は:2,000円(当日))

申込方法:このチラシ裏に必要事項を記入のうえ、FAXにてお申し込みください。または裏面の記載事項を明記のうえ、メールにてお申し込みください。

シンポジウムのテーマ、山形大学の取り組む国際人材育成、グローバル経営、コンソーシアムの活動などに興味・関心のある方は自由に参加できます。



【申し込み先】 もっとみらいコンソーシアム事務局

FAX:0238-26-3772

メールアドレス:takesi-w@indigo.plala.or.jp

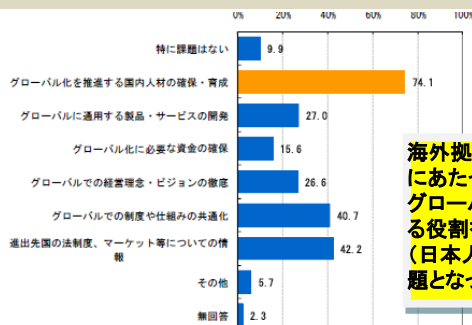
【問い合わせ先】 山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻とうほくMITRAI(みらい)コース

〒992-8510 山形県米沢市城南4-3-16 TEL:0238-26-3622

グローバル化に関する課題と国際人材の採用

今後、世界経済は先進国ではなく新興国・開発途上国において市場が急拡大すると見込まれています。しかしこれまで技術・ものづくり立国として君臨してきた日本の企業は、グローバル化の波に十分に乗りきれず、相対的な国際競争力が低下しているといわれています。若者の内向性、少子高齢化と人口減少、恒常的な財政赤字、団塊世代の大量退職、技術の継承など様々な問題を背景に、いま我々は変革と行動が求められています。

グローバル化の推進にあたっての課題

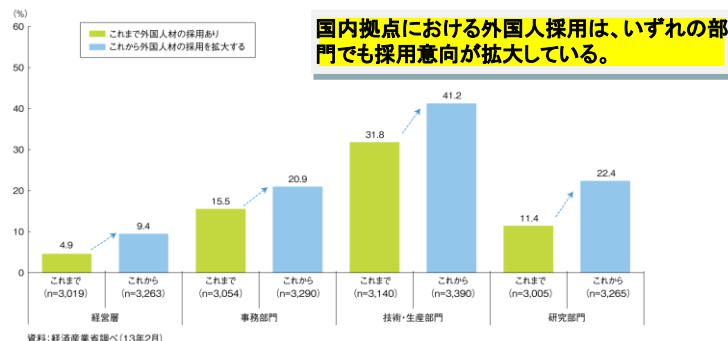


海外拠点の設置・運営にあたっては、企業のグローバル化を推進する役割を担う国内人材（日本人）の不足が課題となっている。

出所) 経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」

(出所) 産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会編
(2010)「～産学官でグローバル人材の育成を」経済産業省
(<http://www.meti.go.jp/press/20100423007/20100423007-3.pdf>)。

国内拠点におけるこれまでの外国人材採用状況と今後の採用意向(製造業)



国内拠点における外国人材採用は、いずれの部門でも採用意向が拡大している。

資料: 経済産業省調べ(13年2月)

(出所) 経済産業省、厚生労働省、文部科学省編「2013年版ものづくり白書」経済産業調査会。

今回のシンポジウムでは、実際に海外展開を積極的に進めている企業の事例紹介や、山形大学における取り組みを紹介しながら、山形県内企業に求められるグローバル人材の確保やグローバル経営について議論を行います。



株式会社ウエノ:

昭和57年にトイダルコイルの巻線業として創業し、平成8年に株式会社ウエノに社名変更。平成15年に中華人民共和国に東莞事務所開設、平成16年に香港上野有限公司設立、中華人民共和国に中国工場(東莞上野)を設立。平成18年には韓国のソウルにコイルデザインセンターを開設、平成20年に中華人民共和国大連に物流センターを開設(平成21年に大連上野を設立)するなど積極的に海外展開を行う。

これまで手巻きが主流であった巻き線の自動化に成功するなど、技術革新を進めることで、「経営革新賞」(山形県、平成19年)、「日経ものづくり大賞(日経BP特別賞)」(平成20年)、「ものづくり日本大賞 東北経済産業局長賞」(平成21年)、文部科学大臣表彰「科学技術賞(技術部門)」(平成22年)、「産業賞」(山形県、平成23年)などを受賞。独自のビジネス哲学や経営手法で、広く注目を浴びる。現在は月産800万個のコイルを製造するまで事業を拡大。

基調講演講師プロフィール:

上野 隆一 氏

昭和23年、山形県生まれ。昭和47年に農林水産省農業者大学校卒業後、家業である農業に就業。昭和59年に有限会社上野製作所を設立し、代表取締役役に就任(平成8年に組織改組を行い株式会社ウエノの代表取締役社長に就任)。平成22年に山形県産業構造審議会委員、鶴岡市行財政改革推進委員会委員を務め、平成24年からは東北公益文化大学理事も兼ねる。

【グローバル時代に求められる国際人材シンポジウム】

申込締切日: 平成26年5月10日(土)

FAX番号: 0238-26-3772 / メールアドレス: takesi-w@indigo.plala.or.jp

※メールの場合はタイトルに「シンポジウム申込」と記載のうえ下記の内容を明記してお送りください。

ご氏名(ふりがな)			
ご所属(会社名)			
ご連絡先	〒		
電話番号		懇親会 (どちらかに○)	参加する ・ 参加しない